



県内外に避難された方々を支援しています

の支援

県内の支援

■生活支援相談員

県では、県内29の市町村社会福祉協議会に、生活支援相談員を200人、県社会福祉協議会に統括生活支援相談員5人を配置しています。(平成25年5月末現在)

応急仮設住宅や借り上げ住宅などで生活している避難者を訪問し、見守り・相談・情報提供などを行っています。

■サポートセンターまごころ (新地町社会福祉協議会)

新地町では、日頃の生活支援相談員の活動を通して仮設や借り上げ住宅の入居者の生活を支えています。主な事業としては、応急仮設住宅での見守りや交流の場づくり・健康体操教室などを実施しており、私たちの訪問を心待ちにしている方も多くいます。今後もできるだけ多くの方々の相談や交流の場を設けていきたいと思ひます(生活支援相談員 目黒 静子さん)。



健康体操に参加する皆さんとスタッフ

■避難者支援団体への助成

県では復興やふるさとのきずなの維持・再生、避難者支援活動に取り組む県内外の団体に補助金を交付しています。主な事業2つを紹介します。

・「地域づくり総合支援事業(ふるさと・きずな維持・再生支援事業)」: 本県の復興などに向け、NPO法人等が行う復興支援、被災者支援に係る取り組みで、NPO法人等の人材育成やネットワーク形成に役立つ取り組みに対して、補助金を交付し、本県のきずなの維持・再生に向けた支援を行います。(平成25年度の募集は終了) 〇 県庁文化振興課 ☎ 024 (521) 7179

・「ふるさとふくしま帰還支援事業」: 本県から県外に避難されている方々が、避難先で安心して暮らせるよう、生活相談や交流の場の提供などを継続して実施する団体を支援しています。

〇 県庁避難者支援課 ☎ 024 (523) 4157

■県職員の県外駐在員

13都県に10名(専任8名・兼任2名)が配置されています。

主な業務として、県内市町村との連絡調整、支援組織との連絡調整、課題の把握や対応を行っています。

■支援団体の活動

特定非営利活動法人やまがた育児サークルランド

山形県山形市で子育て支援活動を続けてきた「やまがた育児サークルランド」では、「福山ひろば」や「ままカフェ@ホーム」など震災以降福島から避難してきたお母さんたちの交流の場を設けています。「同じ山形に住む人として、安心して子育てができるように応援するというのが私たちのモットー。ここでの出会いやつながり、経験がこれからの人生の自信になってくれると思っています」と支援者の三浦照子さん。今後は山形と福島との支援者同士で交流を持ち、連携を図っていく予定です。



「やまがた育児サークルランド」スタッフの皆さん

県職員
県外駐在
配置地図



情報 の支援

積極的な情報発信を行っています

■電子回覧板

避難区域などが設定された9市町村では、県内外に避難された方々に通信機能がついたデジタルフォトフレームやタブレットを配布し、リアルタイムな情報発信を行っています。県では情報発信に携わる人材の支援などを行っています。

■檜葉町担当者インタビュー

檜葉町の電子回覧板のタブレットは町のホームページと連携し、ホームページが更新されると、端末に新着のお知らせをします。仮設住宅に実際に足を運び、操作で困っていることなどをその場で解決できるように「顔の見えるサポート」に力を入れています。町の身近な話題を伝える「こころ つなぐ ならは」というブログも始めています。(檜葉町復興推進課 渡邊 敬さん)



県民
の声

最初は使い方が分からなかったですが、町主催の説明会に出席して使えるようになりました。町からの情報が電子回覧板としてタブレットに届くので毎回見えています。(檜葉町・60代女性)

■広報誌などの送付

原発特例法に基づく指定市町村の避難者の方に対して、県・市町村の広報誌(「ふくしまからはじめよう。ゆめだより」など)やお知らせ、地元紙(福島民報・福島民友)のダイジェスト版などを直接お送りしています。県外の公共施設などにも地元紙を送付し、設置をお願いしています。

■地域情報紙「ふくしまの今が分かる新聞」

復興の状況や、子育て、健康などに関する情報を盛り込んだ、地域情報紙「ふくしまの今が分かる新聞」を月1回発行しています。全国の避難者交流施設や公共施設などで閲覧いただけます。



■避難者支援ブログ(平成23年7月8日開設)

避難者向けに、生活支援や各種相談会・交流会の開催などの情報をブログで発信しています。

福島県避難者支援課

検索

情報

の支援

「ふくしまの今」を
知らせる

きずなづくり 福島県 輪

場・人・情報の支援で
主なものを
紹介します。



県では県復興計画に掲げた12の重点プロジェクトを中心に復旧復興に取り組んでいます。その中の一つ「ふくしま・きずなづくりプロジェクト」について、きずなをつなぐ主な事業や取り組みについて紹介します。

写真は以下の皆さんの活動写真です。

- ①おだがいさまセンター（郡山市）
- ②なみえ絆いわき会（いわき市）
- ③やまがた育児サークルランド（山形県山形市）
- ④サポートセンターまごころ（新地町）

場

の支援

人が集まり、つながる場を

■集える場

・集まることができる「場」があることで、出会いが生まれ、人々がつながります。県では全ての応急仮設住宅に集会所を設けており、復興公営住宅にも住民の交流の場を設ける予定です。

■祭りやイベント

・祭りやイベントも人が集まり、出会い、ふるさとを思う場になります。県ではこれから「ふるさとの祭り2013（9/14・9/15、いわき市）」や「ご当地キャラこども夢フェスタ in 白河（9/21・9/22）」などを開催します。お住まいの地域の祭りやイベントにも足を運んでみませんか。

県民の声

「同じような境遇の人と話せるというのがいいですね。行こうと思えば、行ける場所がある。集まる場所をつくってくださった方がいるというのはありがたいです。」

（やまがた育児サークルランド福山ひろばの利用者・30代女性）

「孤立させない」
そして心を支える

の支援

場

の支援

「人と人が
つながる場」が必要



福島県民の、心豊かな、思いやりあふれる県民性を、私は誇りに思っています。

今も多くの方が避難生活を送る中、県民の皆さんを支えているのは、まさにお互いを思いやる心であり、長年人々を結びつけてきた強い「きずな」です。

この私たちの宝を大切にしていける取り組み、それが「ふくしま きずなづくり」です。

特に、避難者の方々には、たくさんの方の情報をお伝えし、交流の機会を提供します。また、きずなを育む場となってきた地域のお祭りなどの伝統や文化もしっかりと守っていきたいと思います。

着実に震災からの復興を果たし、心でつながる豊かなふるさと「ふくしま」を築いてまいります。

知事 メッセージ

心でつながるふるさと

福島県知事 佐藤 雄平